



## 申16号『電気部門の変革2022について』に関する交渉行っ!

【3月15日交渉内容】 ※議論内容は要旨

### 【電気部門の新たな新幹線体制の確立】

1. 首都圏新幹線電力技術センター（仮称）及び首都圏新幹線信号通信技術センター（仮称）の発足に向けて、1年間の猶予期間内に入念な準備体制を構築し、スムーズに業務体制が移行出来るように万全を期すること。

組合：始終業時間など労働条件の決定、東京と大宮のルール統一、各必要備品の整備、事務所までの交通手段など移行前に整理・把握・調整等をしっかり行うこと。

工事関係では特にパートナー会社がルールの違いで苦労しないような統一を。

会社：東京と大宮のローカルルールを洗い出してより良い統一を図る。

大宮の「設備安全の日」は会社としても良いものであると考えており、在来は今後も継続していく。幹線は統括本部になるのでその判断があるが話はしていく。

始終業時間などは基本的には現行と変わらない。来年度第一四半期には開示できる予定。

交通手段の希望把握は行っていく（駐輪場スペース確保など）

障害を持っている方の通勤についても希望を把握していく。

2. 首都圏新幹線技術センター（仮称）の発足に向けて、安全指導・保安グループ（案）は科長1名以上、一般2名以上の体制とすること。

組合：現在、支社が行っている保安業務を技セが行うことになるのか？

会社：支社が行っている保安業務は統括本部に移行される。技セの安全に関わる業務はこれまでと大きく変わらない。

組合：ルールやエリア統合など、初動体制は重要だ。固定観念で考えるのではなく幅を持った考えを。

会社：発足までに洗い出しと整理を行い、必要な要員を確保していく。

組合：万全な体制を確保していくということで良いか？

会社：そう考えている。

3. 首都圏新幹線信号通信技術センター（仮称）の事務について、業務が適正に行える体制を確保すること。

組合：提案では標準数1だが、エリアの統合や契約業務を考え、現在員数を厚く配置してもらいたい。

会社：職場の状況を把握して配置していきたい。

組合：事務職が悲鳴をあげない体制を求める。

会社：配置の調整を行いながら、万全な体制にしていく。

4. 首都圏新幹線電力技術センター（仮称）の発足に向けて、現在の大宮新幹線電力技術センター機械PTを機械科グループとして配置し、保守用車業務に必要な体制を確保すること。

組合：設備21施策からのPT。この間の議論経過も踏まえ、恒常的な業務であり要員化すること。

会社：大宮は新幹線の看板を背負っており、保守用車運用も行ってきた。膨大な台数が増えるわけではないが東京の保守用車も入る。前向きに考えており、検討している。

組合：前向きに検討していることを確認する。モチベーションの点からもその体制づくりをお願いする。

5. 首都圏新幹線信号通信技術センター（仮称）において新設される小山メンテナンスセンターについて、現在の各メンテナンスセンターと同規模の体制を確保すること。

組合：新設の小山メセについては各メセと同規模の要員配置とし、宇都宮メセの削減は行わないこと。

会社：境界の案ではATC境界で考えている。宇都宮のエリアが広いので現行の宇都宮エリア内で分ける。休日の体制もあるので必要な体制を確保していく考えだ。

組合：各メセは現行メセ長1・一般5だ。それより少ない体制は考えづらい。

会社：万全な体制を整える。